

令和2年度文化財保護審議会 会議録

- 1 開催日時
令和3年3月19日（金）
開会 午後2時
閉会 午後3時40分
- 2 開催場所
尾張旭市役所2階 201会議室
- 3 出席委員
斎場和志、林 宏、桐原千文 3名
- 4 欠席委員
奥野絵美 1名
- 4 傍聴者数
0名
- 5 出席した事務局職員
教育部長 三浦 明
教育部次長兼文化スポーツ課長 加藤博英
文化スポーツ課長補佐兼文化振興係長 林 正信
文化スポーツ課 田口麻花、藤森あかね 5名

8 議題等

(1) 議題

- ア 令和2年度文化財保護関連事業の実績等について
- イ コロナ禍における文化財保護行政のあり方について

(2) その他

令和3年度予定事業について

9 会議の要旨

会長	ただ今から、令和2年度尾張旭市文化財保護審議会を開催いたします。 尾張旭市文化財保護条例の規定による定足数に達しておりますので、会議を始めたいと思います。 議題に入る前に三浦教育部長よりあいさつをお願いします。
教育部長	(あいさつ)
会長	ありがとうございました。 それでは、議事に入らせていただきます。 本日の会議は、議題が二つございます。 議題1 令和2年度文化財保護関連事業の実績等について、説明をお願いします。
事務局	(資料1に基づき説明)

会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明につきまして、御意見、御質問はございませんか。</p>
桐原委員	<p>2点ほどお聞きします。まず、史跡等保存公開事業の市制50周年特別企画展を延期されたということですが、どのような企画を予定していますか。</p>
事務局	<p>文化会館ロビーで、尾張旭市の50年のあゆみを中心にパネル展示や、市制施行記念の動画や寄贈されたネガフィルムなどを中心に展示する企画でございます。</p>
桐原委員	<p>動画等は流すことを考えていますか。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
桐原委員	<p>小学校3年生のカリキュラムが変わり、「昔の暮らし」という単元が「暮らしの移り変わり」とタイトルが変わりました。昭和30年代～40年代ぐらいからの変化を取り上げるようなので、それにはまったような企画でもありますね。今後、小学校に対しての提供の材料になるかもしれません。また12月にやれると良いですね。</p> <p>あともうひとつですが、市指定文化財円空仏の燻蒸について、3回目ですよ。1番最初はおそらく円空仏が寄贈された時点で、直前に燻蒸してケース内に入れられたということだろうと理解していますが、今年もされたということで、使っている薬剤もお聞きしましたが、どのような経緯で毎年やるとなったのでしょうか。</p>
事務局	<p>寄贈いただくというお話をうかがってから、関市や美濃市といった円空仏を多く持つ資料館に問い合わせたところ、毎年燻蒸をされているといったお話を伺い、さらに燻蒸の業者にも話を伺って、それから毎年燻蒸をしている経緯です。</p>
桐原委員	<p>燻蒸にも色々あり、エキヒュームが使われているということですが、現在文化庁からの指示では、基本的には燻蒸というものは毎年行うものではないのです。名古屋市博物館でも毎年燻蒸はやりますが、同じものに対して燻蒸は毎年しません。一回やったらその後は予防措置という形になっています。</p> <p>燻蒸の薬剤は、劇薬を使っていた時代もありました。また、2000年以降の温暖化の絡みもあり、昔使っていた薬剤は通常使えなくなりました。文化財の燻蒸にエキヒュームは結構使われていますが、文化財に使う物の中では一番強いです。燻蒸はスカイワードあさひの収蔵庫でやっているのですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
桐原委員	<p>敏感な方が近くにいるとクレームの材料になる可能性があります。実際、現在博物館がやる燻蒸は、文化庁の指導もあり炭酸ガス燻蒸です。二酸化炭素で虫が息できない状態になると考えてもらえば良いです。虫が出たら、その状態によって薬剤燻蒸も検討の中に</p>

	<p>入れても良いと思います。ただ、毎年やるのはあり得ない。</p> <p>現在、文化財に対する指導は薬剤を使う方向ではなく、日常的に状態をきちんと監視するということが第一に推奨されています。基本的には掃除、それから目で見て虫がいるかいないかを確認する。また、専門の業者に相談されれば分かるのですが、ゴキブリ駆除程度の薬剤で、多少スカイワードの展示スペース全体の殺虫はやっても良いかとは思いますが。</p> <p>円空等の仏像を扱っている者に聞くと、毎回これだけ強い薬剤を使うということは、円空仏に対しての影響が全く無いわけではないということも言いますので、ご検討になったほうが良いかと思えます。</p> <p>どこかに助っ人を頼まれるか、もしくは民具等はある程度しっかりした殺虫をせざるを得ないかもしれません。もう少し全体的に見ていただいて、資料を集めて、よく検討された方が良いと思います。基準に従って、文化庁等から文化財に対して言われている方向性を踏まえたうえで考えたほうが良いと思います。</p> <p>また、温湿度はコンピュータ管理で測れるものがありますが、それは入れられましたか。</p>
事務局	次年度の事業のところでお話させていただきます。
桐原委員	<p>日常的な温湿度の変化をきちんと管理することはできると思います。カビは管理である程度予防することは可能だと思います。カビを殺す薬はよほどでないと思えません。エキヒュームは一応殺菌も入っていますが、それが強い薬剤ということです。発がん性もあることが明確に書かれているので、そのような薬剤だということを御理解いただいて、検討された方が良いと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。かなり具体的にさまざまな例を出していただきましたので、ぜひ検討をよろしくお願ひしたいと思います。では林委員お願いします。</p>
林委員	<p>スカイワードあさひの歴史民俗フロアでの企画展についてお話しします。民具企画展・考古企画展について、両方ともコンパクトな会場で、ポイントが展示されて良かったのですが、そこで感じたことを言います。</p> <p>例えば、「尾張旭七城めぐり」で足りないところは、表現が難しく、ルビがあまり無いことです。例えば、「水野雅楽頭宗国」というのは読めないで、絶対にルビが必要です。子ども向けのカルタ解説書や歴史民俗フロアのマップはルビがついていますが、この企画展のパンフレットではされておらず、良くなかった。</p> <p>そして、この「尾張旭七城めぐり」はほとんど館(やかた)です。平面図は出ていましたが、復元図があると分かりやすかったと思いました。</p>

	<p>また、印場城の木器の写真が一枚展示してありましたが、なぜ写真ではなく本物を並べなかったのでしょうか。確かにスペースは小さいですが、展示するともっと良い展示ができたのではないかと思います。</p> <p>「70's 尾張旭が生まれた頃」の展示については、昭和 36 年にできた愛知用水が田舎から都市になっていくきっかけを与えたことに全く触れられていない。</p> <p>これらの展示は、NPO 法人のニワ里ねっとに委託していますが、地域に密着した小さな企画展は私たちでやった方が良いのではないかと。それが地域の色々な力を高めることになっていくと思うので、時間をかけてでも尾張旭の人と協力して企画し展示をしていくのが良いのではないかと。ご検討頂けたらと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございました。昨年もそのような話が林委員からありましたが、そのあたりはどうですか。</p>
事務局	<p>「古文書によるあさひの暮らし」が 2 回目で、年に 1 回のペースで尾張古文書の会にお願いしていますが、団体の方から展示をやるのが厳しいというお話を受けている状態です。尾張旭そのものの歴史や文化などを伝えるにあたっては、地元の方にご協力を頂くのが最適だと思いますので、今後ともこのような企画展に参加いただける団体にお話をしようかと思っております。</p>
会長	<p>そのようなやり方はとても時間がかかると思いますので、どの企画もというわけにはいかないと思います。何か一つ学芸員の方で、地元の方の話聞いた方が良い企画ができるだろうというものがあれば、少し地域の方に声をかけることもお願いをしたいと思います。無理のないところで、林委員のおっしゃる企画も計画してもらえたら良いと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
林委員	<p>このコーナーを全て持ってくださいということではなく、「瀬戸・尾張旭郷土史研究同好会」、「ふるさとガイド旭」等個人的にいろいろ勉強されている方に 1 年間くらいゆとりを下さって、こういう企画で文化スポーツ課の展示をやりたいと思っているので協力してもらえないかとお願いする。</p> <p>色々な人が色々な資料を持ってみえます。それを文化スポーツ課の方で組織的に情報を得て、考えていただき、それが一年に一回でもやれたら、尾張旭の歴史的な文化レベルを高めていけると思います。</p>
桐原委員	<p>スカイワードの展示やスペースとしてはまとまった形にはなっています。ニワ里ねっとはパネルや印刷物等そういったものも全てノウハウがあって受けているということだと思います。ただし、企画はやはり尾張旭のお一人ではなかなか大変だろうと思います。学芸員が中心になってまとめる。それにはまず 1 年くらいかけて尾張旭の</p>

	<p>色々な人も含めてご自身でも調査をされる。調査をし、まとめる時点でこういうところのノウハウも含める。ただし、内容はこちらが作るということをして2年に1回でもできれば良いと思います。</p> <p>古文書の会の展示は、古文書の会の方が集められた資料を、学芸員の目で調査してそれをどう展示できるかという形にしなければ展示にはならないと思います。具体的には私も分からないのですが、この会の方が持ってみえるのはできたものを持ってみえるのですか。</p>
事務局	我々職員とさらに収蔵庫の整理をお願いしている尾張旭民具研究会が混じって企画の方は練っています。
桐原委員	そこに学芸員も入るのですね。
事務局	はい。そうですね。
桐原委員	展示を作る時は、市で主体的にやると中心になるのは学芸員だと思います。ディスプレイは見栄えの良さを考えるとニワ里ねっこのようなところのお力をお借りになればいいと思います。まず企画を練ってどういう形でまとめるのか。さらに、よくご存知の方にご意見を聞いて調査をすることも今からやると1年後か2年後なのでやってみる必要はあると思います。
会長	ありがとうございます。もちろん学芸員を中心にした収蔵庫には何人かおみえになりますよね。その方々も含めて企画をされて、NPO法人がいろいろなノウハウを持っているので見やすい形のものを提案してもらっている、そういうかたちですよ。
事務局	原案の方は我々が2、3個考え、事前に打ち合わせをしたうえで業務を進めています。
会長	<p>その中で地域の市民の考えを取り入れる機会があれば、時間がかかっても進めてもらえると、どう違ったものが出てくるのか、見る側としては楽しみの一つになると思うので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。</p> <p>続きまして、議題2「コロナ禍における文化行政のあり方について」説明をお願いします。</p>
事務局	(資料2に基づいて説明)
会長	1,100名の人達が一斉に城山公園に集まりますよね。たくさんの人で盛り上がるイメージ湧きますが、国等のガイドラインに基づくと、今までのような実施計画を組み立てるのはとても難しいと思います。
事務局	今後の無形民俗文化財についての保護、継承のあり方についてもご議論いただけたらと思います。
会長	人から人へ繋いでいくのが基本になる無形民俗文化財を、どういう形で若い世代に繋げていくかという話かと思います。動画で継承し、関わった人に図書カードを今年も渡すという内容でしたが、こ

	れを受けた評価はどうでしたか。
事務局	現在回収中ですが、尾張旭の棒の手の歴史等がどのように受け継がれて行くのかを紹介した動画の感想文の一部を読んだところ、普段やっている無形民俗文化財の意味合いを改めて知ることができた。さらに中学生や大学生では、子どもたちに引き継いでいかなければいけないと改めて感じたとの感想が多くありました。
会長	今年に限ったことであって、動画で学習をすることは良いかもしれませんが、果たして繋げていくことになるのかと思います。今後、コロナがどのようなようになっていくのかは分かりませんが、何か人と人との交流する場を工夫していかなければならないと思いますが、どうでしょうか。
桐原委員	現場に行ったことはないのですが、やはり棒の手の練習をすれば密の状態になる。
事務局	現在、フェイスシールド等を各保存会に配布しており、換気をする等密にならない対策をとるよう保存会に通知をしています。
会長	練習風景を見ますと工夫さえすればやれると思います。外でやる練習ですから声さえ出さなければそこまで心配は無いような気がします。ざい踊りも離れてやれば繋げていけるとと思います。かなり技術的なことが多いですから。今回、初めてのことで皆さん慎重になりますよね。
桐原委員	結局、人と交流するなというのは全体的に言われており、無形民俗文化財だけではないと思います。もちろん、市としても方針を出してガイドラインみたいなのを考えた方がいいとは思いますが、やり方はある気がします。
林委員	やってみたいと思う子どもは今でもかなりいると思います。それぞれ工夫されていると思いますが、小学校での実演など子どもたちに実際にやっているところを見せて、「面白そうだな、やってみようかな」と増やす工夫が何かありますか。
会長	ざい踊りは、白鳳小学校と三郷小学校でずっと続けてやってきました。白鳳小は運動会の時にやっているといます。 棒の手は、2年くらい前に各小学校で演技を見せる機会がありました。3年くらい前には、西中学校の文化祭で中学生が棒の手の演技を体操服でやっていました。意外と地域の子どもたちには広がっているという印象を持っています。 したがって、今年限りのことだと思っています。ただ、放っておけば火が消えてしまう心配がありますので、何か繋ぐ働きかけは大事だと思います。
林委員	棒の手の歴史について子どもにも分かりやすく伝えたり、ざい踊りは数え歌のような歌があり、どのような意味があるのか少し解説したりしても楽しそうで意味があると思います。いろいろ工夫して

	できると思いますが、いかがですか？
教育部長	(無二流棒の手保存会の令和2年度の実施方法について説明)
会長	工夫してやっていけるような気がします。50周年の警固も一人ひとりが責任を持って、自分の体調は大丈夫だという確信のもとで参加してもらうことがまず大事だと思います。特にお年寄りには命に関わるから慎重にならざるを得ませんが、しっかりと対策を取って、自分の体調をしっかり確認をして参加すれば問題はそんなに無いのかなと思います。
林委員	秋に1,000人を集めてやるのですか。
事務局	はい。
林委員	それは室内ですか。
事務局	室外です。野球場の半分です。通常、秋それぞれの地区でやっているものを5年に一度だけ城山公園に全地区、6地区5流派が集まります。
教育部長	昔、大森合宿という龍泉寺で豊田や名古屋等全ての棒の手が集まっていた。それが無くなったので、尾張旭だけとしては、5年に1回集まってやりましょう、というのが無形民俗文化財の考え方で、それが市のお祭りとかくっついているということです。
会長	ありがとうございました。議題2はよろしかったでしょうか。 本日予定しておりました議題は終了しました。委員さんの中で別で御意見はありますか。
林委員	子供向け無形民俗文化財パンフレットやスカイワードあさひに置いてある歴史民俗フロアマップ等、直接小学生や中学生等の子どもが目にして尾張旭市の歴史や文化財を学ぶときは、白黒ではいけないと思います。もっとカラーにする等きれいな印刷にさせていただくことはできないですか。白黒のこれで勉強しても良いと思いますが、迫力が感じられません。
事務局	原版はカラーですが、カラー印刷となると多少値段が張るので、例えばカルタの解説書はカラーで小学校に配布しており、ご要望があれば増刷もしています。
林委員	そうではなく、子ども一人に一枚ずつ配るので、白黒で良いとは思いません。これだけたくさん情報を入れるのならば、字の色を変える等して、読みやすい工夫をした方が、子どもが手に取って読む気がします。また検討をお願いします。
会長	お願いします。わたくしたちはとりあえずここで終わりますが、事務局から何かありますか。
事務局	(令和3年度予定事業について説明)
会長	ありがとうございました。桐原委員のお話でありました円空仏の温湿度計に関してもう予算化されているということですね。
桐原委員	データロガーですか。

事務局	USB で抜き取ってデータを回収できるようなものを設定しております。
会長	それでは、全ての議題が終了いたしました。これもちまして、令和2年度 文化財保護審議会を終了します。 ありがとうございました。